

茨城県景気ウォッチャー調査結果 (令和6年9月調査)

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。  
 この度、令和6年9月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 景気判断DIは現状・先行きとも2期連続で50を下回った～

☆ここがポイント

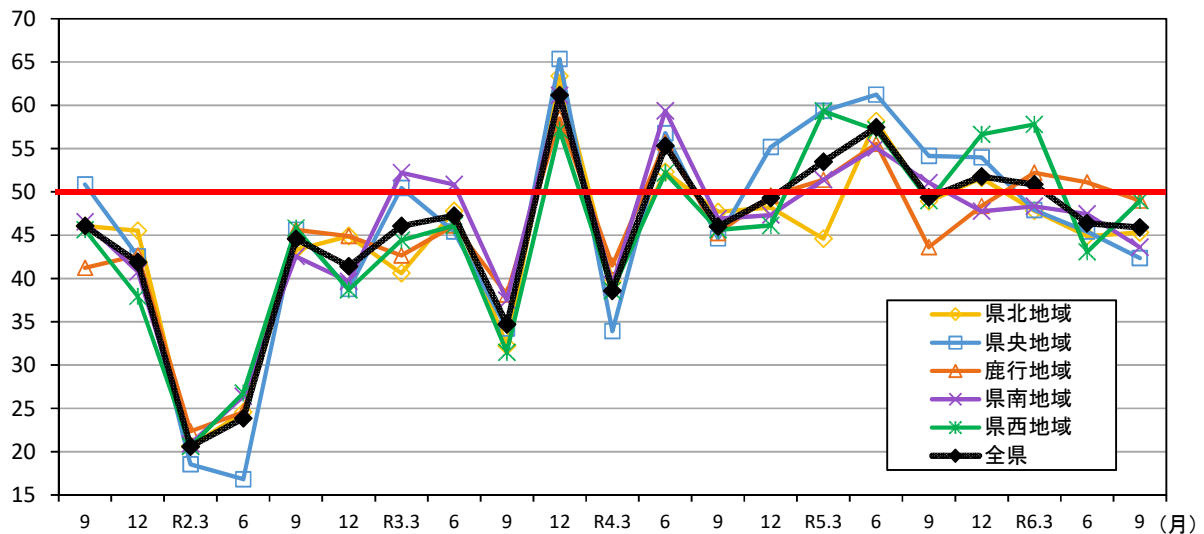
区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比 (%) で乗じてDIを算出している。  <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
	9月調査結果	前回調査との差	9月調査結果	前回調査との差	
県全体	45.9	△0.5	48.7	+0.7	
県北	45.3	+0.4	49.0	+3.1	
県央	42.3	△3.1	49.0	+1.0	
鹿行	49.0	△2.1	49.0	+2.8	
県南	43.6	△3.8	45.2	△3.8	
県西	49.0	+5.9	51.0	△0.1	

○県全体の景気判断DIは、現状・先行きとも2期連続で50を下回った。

○地域別では、県北が現状・先行きとも前回調査を上回ったのに対し、県南は現状・先行きとも前回調査を下回った。

○ウォッチャーからは、物価高騰や最低賃金の上昇、コメ不足に関するコメントが多く寄せられた。

(DI) 景気現状判断DIの推移 (地域別)



[調査の概要]

- ・ 調査客数 … 県内5地域 (県北、県央、鹿行、県南、県西) ごとに50名、計250名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断 (「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択) とその判断理由 (コメント) の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期 (6、9、12、3月) 毎に実施し、翌月公表。(今回調査期間: 令和6年9月5日から20日まで)
- ・ 回答率 … 97.2% (250名中243名から回答)

(地域区分) 県北地域: 日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町  
 県央地域: 水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村  
 鹿行地域: 鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市  
 県南地域: 土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町  
 県西地域: 古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

## 〈参考〉

現状判断回答構成比

調査年月 回答	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月
良くなっている	2.5%	5.1%	2.6%	3.8%	1.6%
やや良くなっている	25.2%	23.6%	26.3%	17.5%	17.3%
変わらない	44.5%	48.9%	46.1%	45.0%	49.0%
やや悪くなっている	22.7%	18.1%	22.0%	27.9%	27.2%
悪くなっている	5.0%	4.2%	3.0%	5.8%	4.9%

先行き判断回答構成比

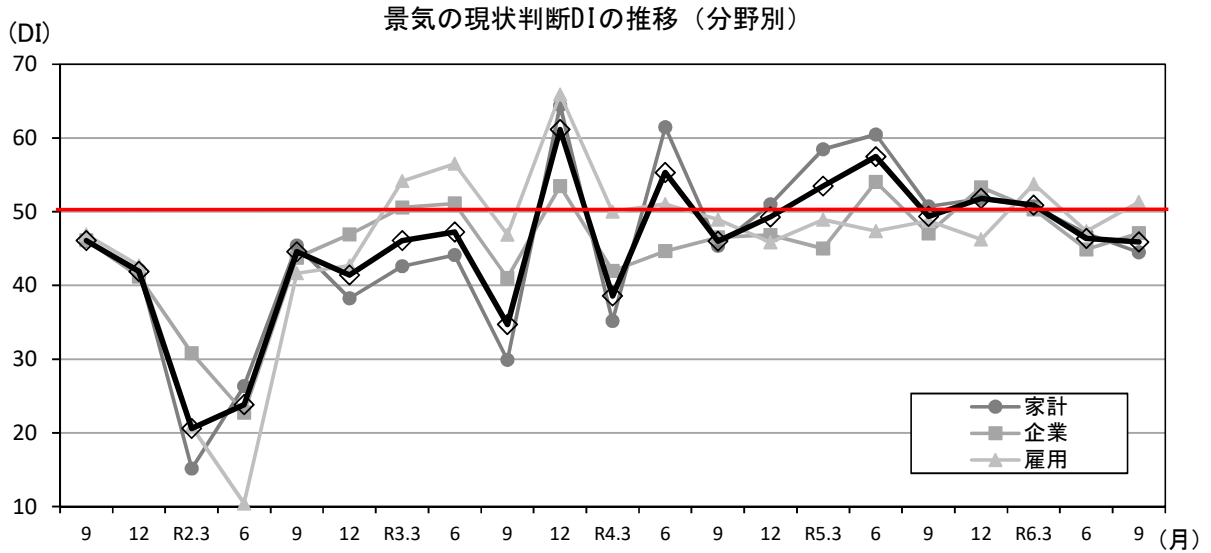
調査年月 回答	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月
良くなっている	2.9%	2.5%	2.6%	1.7%	0.8%
やや良くなっている	24.8%	17.3%	29.7%	19.2%	22.6%
変わらない	51.3%	56.1%	52.2%	52.9%	50.6%
やや悪くなっている	17.6%	20.3%	14.7%	22.1%	22.2%
悪くなっている	3.4%	3.8%	0.9%	4.2%	3.7%

## 2 分野別の動向

### (1) 現状判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より2.5ポイント低下し、2期連続で50を下回りました。  
 企業動向関連DIは、前回調査より2.2ポイント上昇したものの、2期連続で50を下回りました。  
 雇用動向関連DIは、前回調査より3.9ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。

調査年月 分野	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月
合計	<b>49.4</b>	<b>51.8</b>	<b>50.9</b>	<b>46.4</b>	<b>45.9</b>
家計動向関連	<b>50.7</b>	<b>51.8</b>	<b>50.7</b>	<b>47.0</b>	<b>44.5</b>
小売関連	47.4	43.9	48.6	43.3	37.5
飲食関連	56.9	64.1	54.4	47.2	46.9
サービス関連	50.8	55.4	49.1	47.9	48.4
住宅関連	59.4	55.6	68.8	63.9	58.3
企業動向関連	<b>47.0</b>	<b>53.3</b>	<b>50.3</b>	<b>44.9</b>	<b>47.1</b>
農林水産業	40.6	50.0	53.6	56.3	42.9
製造業	45.5	53.8	45.0	37.5	43.8
非製造業	50.9	53.7	57.1	51.7	52.5
雇用関連	<b>48.8</b>	<b>46.3</b>	<b>53.8</b>	<b>47.4</b>	<b>51.3</b>



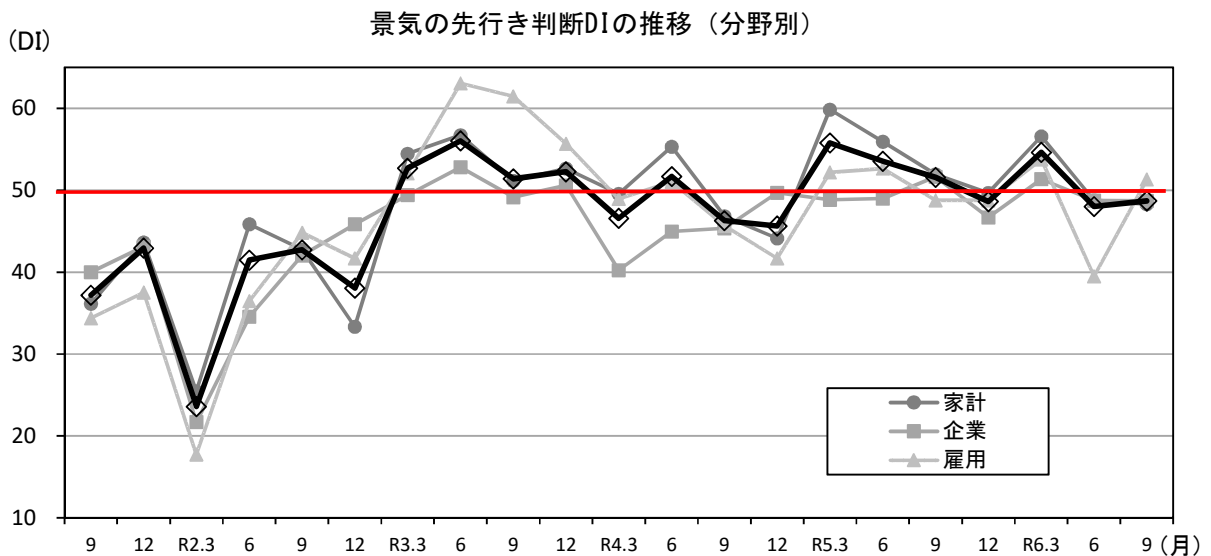
## （２）先行き判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より0.5ポイント低下し、2期連続で50を下回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より変わらず、2期連続で50を下回りました。

雇用動向関連DIは、前回調査より11.8ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。

分野	調査年月				
	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月	令和6年 9月
合計	51.6	48.6	54.6	48.0	48.7
家計動向関連	51.9	49.6	56.6	48.8	48.3
小売関連	45.6	46.1	51.8	43.8	44.8
飲食関連	61.1	60.9	63.2	55.6	51.6
サービス関連	54.2	47.9	58.3	52.9	49.6
住宅関連	59.4	63.9	62.5	38.9	55.6
企業動向関連	51.6	46.7	51.3	48.7	48.7
農林水産業	53.1	50.0	50.0	56.3	46.4
製造業	53.2	43.1	49.4	49.4	46.9
非製造業	49.1	50.9	54.5	45.8	51.7
雇用関連	48.8	48.8	53.8	39.5	51.3



### 3 ウォッチャーのコメント抜粋

#### (1) 県北地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは45.3となりました。前回調査より0.4ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (製造業(電気機械器具)) 核融合関連の据付工事が本格稼働し始めたものの、液晶・半導体製造装置関連や建設機械関連において注残が残っているため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (公共職業安定所) 求人に対し、求職者が多くなっている。60歳以上の求職者が増えている原因としては、雇い止めなどがある。事業所としては派遣や有期雇用ではなく、若年者の直接雇用に切り替えを図っている。特に製造業では明暗が分かれているようで、自動車関連のサプライ系では、ガソリン車を主体としている所は先行きに不安があり、金属加工系は上向きになっているようである。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは49.0となりました。前回調査より3.1ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (ゴルフ場) 南海トラフ地震の報道で、海外予約(特に韓国)が多数キャンセルになった一方で、WEBサイトでは韓国から個人での予約が入り始めた。
- ・ (非製造業(その他)) 半導体産業(米国)の動向が芳しくないため、やや悪くなっていると判断する。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (小売業(弁当・惣菜店)) 消費の復活は実感できるが、依然として諸物価の上昇は徐々に収益を圧迫している。また人件費の上昇は必要なこととはいえ、あまりにも急激で零細企業には重荷である。
- ・ (観光型ホテル) 地域の状況では、宴会や法要など、団体で利用できる施設が減少しているため、当館の利用者が増加している状況である。また、今まで新型コロナウイルス等により開催が出来なかった同窓会の開催が、今年度になりかなり増えている。同社内で運営している観光関連の施設では、海外の客が多く来所しているようだ。

#### (2) 県央地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは42.3となりました。前回調査より3.1ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回りました。

- ・ (写真店) 物価高の影響が大きく、厳しい状況が続いているため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (建設業) 民間投資が減少しているように感じるため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは49.0となりました。前回調査より1ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (都市型ホテル) 忘年会のシーズンであるが、例年と比べ予約の伸び率が悪く、現在よりも状況は少し悪くなると思う。レストラン等もクリスマス商戦となるが、平日に当たることもあり大きな伸びは見込めないと思うので、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (製造業(印刷・同関連業)) 10月からの郵便料金値上げにともない封筒印刷の減少が考えられ、益々ペーパレス化が進むのではないかと思うので、やや悪くなっていると判断する。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (バス運転手) 都市部ではマンション等の建築が見られる一方、高度成長期に造成された団地では、多くの空き家が見られる。
- ・ (公共職業安定所) 概ねコロナ禍以前に戻りつつあると感じるが、運送業、建設業、サービス業等では人手不足が顕著であり、特に新卒者の採用確保に苦慮しているといった声を多く聞く。さらに、物価高、賃金増による人件費増、原材料費高騰といったファクターに、重い舵取りを迫られる企業も少なくない。

### (3) 鹿行地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは49.0となりました。前回調査より2.1ポイント低下して、横ばいを表す50を3期ぶりに下回りました。

- ・ (レジャー施設) 猛暑、自然災害(地震・台風)などにより施設利用者、売上げが減少した。また、海水浴場の閉鎖及び近隣の海水浴場での水難事故も影響し、海水浴帰りの利用者も少なかったため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (製造業(食料品)) 原材料の値上がりや経費の値上がり等に伴い、昨年12月に10%の商品の値上げを実施した。しかしながら、それ以後も値上がりが続き原価を押し上げている。これ以上値上げをすると、消費者離れがあるのではないかと思うので、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは49.0となりました。前回調査より2.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (日本料理店) 先行きに良い話など全くない。飲食店にとっては、米は欠かせない物で、それが異常に高くなるとご飯のおかわり無料が難しく、無料制度を考えなおす飲食店の話聞いた。
- ・ (金融業) 飲食業、小売業、宿泊業とも同業者間の競争激化で、原材料高の影響や労働者不足などの要因が重なり、利益率の減少が続くと思われるので、やや悪くなっていると判断する。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (建設業) 食品などの定価は以前と変わらないが、内容量が減っている。結局、価格は維持しつつ実質値上げである。
- ・ (学校就業関係者) 外国人観光客は大変安く感じているといわれる食事やお土産も驚くほど高く感じる。チェーン店の牛丼は外国人向けメニューが2,000円等、相対的な賃金の格差が大きくなっていると思われる。

### (4) 県南地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは43.6となりました。前回調査より3.8ポイント低下して、横ばいを表す50を4期連続で下回りました。

- ・ (理・美容店) 7月、8月は新型コロナウイルスや風邪が流行って、キャンセルがあったり、予約も入らなかった。既存の顧客の3割ほどが来なくなったため、悪くなっていると判断した。
- ・ (不動産業) 新築・中古問わず住宅の販売、土地の販売、賃貸需要すべてが減少しているため、悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは45.2となりました。前回調査より3.8ポイント低下して、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (タクシー会社) 人手不足、高齢化、労働時間の問題などに加えライドシェア問題などもあり、業種によっては逆風が吹いている。小規模会社には厳しい状況であるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (製造業(窯業・土石製品)) 借入の金利が上がると金融機関からアナウンスを受けている。返済・借入のバランスを取りながら進めているが、今まで金利のない世界でやっていたため、自社だけでなく取引先も今後どのくらい影響が出てくるのか判らないため、やや悪くなっていると判断する。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (都市型ホテル) 海外セールスのため旅行会社を訪問するが、航空券が高く団体でも販売が難しいとのこと。アウトバウンドが増えないとインバウンドも入ってこないし、飛行機も増便にならない。円安の影響もありインバウンド消費もあるが、中流層の取り込みをすることで更なるインバウンド需要に期待したい。
- ・ (金融業) 預金から投資性商品へ切替を考える顧客が増え、iDeCoや保険の問合せも増加しているが、まだ実際に踏み切るには至っていないと感じる。

## (5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは49.0となりました。前回調査より5.9ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (家電販売店) 購入客数は増えたが、エアコンの工事代が高額になるため取付を止めるなど、この暑さにも関わらず保留にする客が少ないため、変わらないと判断した。
- ・ (製造業(その他)) 受注量が減り、円安による原価高のため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは51.0となりました。前回調査より0.1ポイント低下したものの、横ばいを表す50を7期連続で上回りました。

- ・ (商店街代表者) 地域のイベント等への参加者状況が、コロナ禍前までとは行かないが増加しているように感じる。また、過疎地域であり人口流出も懸念される地域ではあるが、大型店舗が進出するなど景気の良い話も聞くようになったため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (製造業(窯業・土石製品)) コスト高を転嫁できなかった頃に比べて、価格を上げても受け入れられる事が増えていると思うので、やや良くなっていると判断する。

### ③ 特徴的動き

- ・ (金融業) 圏央道の影響により県西の各地域で工業団地造成が開始され、それに伴い倉庫の需要が高まっている。首都圏に近い地域では土地単価が高騰している。土地単価が安価である事や、未線引区域である事から需要が増加しているようだ。
- ・ (人材派遣業) 採用に苦戦している企業が給与改善に着手するケースが増加していると感じる。輸送費や原材料費が高騰している中で、苦渋の判断をしている企業が多いと思う。

## (6) 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

### ①「物価高、値上げ」に関するコメント 260件 (県北: 46 県央: 60 鹿行: 60 県南: 53 県西: 41)

- ・ (スーパー) 物価上昇による購買力の低下に賃金上昇が追いつかず、個人消費が落ち込むと思うので、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (小売業(酒類)) 値上げの波がいつ収まるのか、毎月のように何かしらの商品が値上げしていて、そのたびごとに在庫を抱えなくてはならず、厳しい状況が続いている。小売店は値上げを真正面から受け止めなくてはならず、そろそろ限界とさえ感じる。この状況が続けば、廃業や倒産に追い込まれる小売店が更に増えるのではないかと思う。

### ②「最低賃金上昇に伴う影響」に関するコメント 53件 (県北: 16 県央: 7 鹿行: 12 県南: 8 県西: 10)

- ・ (レストラン) 最低賃金も上がり、景気が良くなるように感じるが、扶養枠の問題もあり、企業からすれば労働時間を短縮せざるを得ない。
- ・ (求人広告) 最低賃金の上昇が企業側の負担増となり、雇用に対するハードルが高くなった結果、求人広告の出稿量を減らすという動きが感じ取れるため、やや悪くなっていると判断する。

### ③「米価高騰、コメ不足」に関するコメント 43件 (県北: 7 県央: 5 鹿行: 8 県南: 14 県西: 9)

- ・ (小売業(米穀)) 米売り場に米が並んでいないというのは非常事態だ。
- ・ (スーパー) 米不足懸念による特需・相場高騰の影響は近年まれにみる消費動向となっている。それに伴い、米に代わる主食(パン、パスタ、麺、レトルトご飯)の販売も好調のためやや良くなっていると判断した。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>